

## 平成18年度第2回山梨県考古博物館協議会議事録

### ○ 開催日時

平成19年3月9日（金）午後2時～

### ○ 開催場所

風土記の丘研修センター研修室

### ○ 出席者

委員：花輪定徳委員、大隅清陽委員、椎名慎太郎委員、谷口一夫委員、  
神楽洋美委員、池田友治委員（15名中6名出席、他7名委任状提出）  
事務局：館長、副館長、次長、学芸課長、学芸課員、総務課員

### ○ 協議会の成立

山梨県附属機関の設置に関する条例第6条第2項の規定により、出席委員が定足数に達したため協議会は成立した。

### ○ 議事

- (1) 平成18年度考古博物館経過事業について
- (2) 平成19年度考古博物館予定事業について

（事務局） (1)、(2)について説明

（委員）

2点質問があります。一つ目は学校における教育課程での入館者数が平成2年度以降下降しているが、学校側に何らかの事情があるのか。二つ目は県立博物館はハブ博物館として位置付けられているが、考古博物館は考古の専門館としてその役割を果たすという意味でも、県立博物館へ何か働きかけをしているか。

（委員）

最初の点について、学校側の立場からすると移動手段がまず大きな問題である。バスを一日貸し切ると、8万円近くかかるため、思い切って遠くへ行ってみようとか、イベントが沢山ある所へ行ってみようという話になる。来たい気持ちはあるのだが、30人位の学年だととても負担が大きくなるので、無料バスの送迎などがあるとありがたい。

（事務局）

過去に各地域からどのくらい教育課程で使ってもらっているか調べた結果、利用校が多かった時は、各地域ごと3～4割の学校に利用していただいていたが、ここ数年は利用率が低下している。特に1割にも満たない地区が地元である東八や東山であり、南巨摩や南都留地区の利用率も低かったことから、これらの地域を重点宣伝地区として、校長会などで

来年度の計画への組み込みについてアピールしている。なお、利用率の低下は各地に様々な施設ができてきていることも影響していると思う。ただ、委員が言われているとおり、移動手段が問題なのは確かなようで、教育委員会でもバスの補助制度を検討しているようだが、財政状況が厳しいので話は具体化していない。

(委員)

学校では「総合的学習は地元で」という傾向にあり、結局は歩いて行ける所になってしまっただが、交通機関が利用できることから、子供たちにはバスの乗り方の指導を含め、県立博物館へはよく行っているように思う。なお、考古博物館は春・秋などの季節に合わせた校外学習などをアピールするとともに、年度内のうちに学校へ出向くなりして担任へ話をするなど、といったことが考えられると思う。ところで、考古博物館からこちらの風土記の丘研修センターまでは歩いてどのくらいかかるのか。

(事務局)

今、ここまで歩いて来たのですが、考古博物館からは歩くと10分から15分といったところ。遊歩道を植物等散策しながら歩くと、20分から40分くらいかかると思う。

(委員)

考古博物館と研修センター、合わせて遊具なども加えた子供向けのルートを考えていただければ活用できると思う。

(委員)

県立博物館にはなく、考古博物館にしかない素晴らしいものとしては、風土記の丘として整備された本物の史跡や遺跡が挙げられると思う。自然や歴史的な環境の学習という意味から、ここでしか体験できないような、小学生が一日過ごせる企画をしてみたらどうか。

(委員)

公民館事業に参加する高齢者も多いのですが、自主企画するためには、県下の特別展や企画展の情報を知っている必要を感じます。また、高齢者に限らず今後増える団塊の世代の方々が興味・関心を持って参加したくなるような事業を企画しながらPRに力を入れていく事が大切であると思います。その意味で考古博物館の開館25周年記念事業「世界遺産ナスカ展」の特別展や企画展の成功を期待したい。

現在、富士山とか南アルプスなど世界遺産への登録に関心が高まっている時なので、この事業の成功に向けてしっかり情報提供をしていくことが大切であると考えます。さらに、より来館者を呼ぶためにも、今、ブームになっている北杜市の「風林火山館」など関係機関との連携をとっていくことも必要であると思います。

(委員)

冒頭に質問された二つ目の件について、県立博物館に考古博物館の資料は置いてあるか。

(事務局)

情報プラザのように、縦長にパンフレットが置いてあるような状態ではないが、各企画の展示されている箇所にはプレートを置き、考古博物館の紹介をしている。各館の入場者総数が比較にならないので詳細については不明だが、昨年行われたスタンプラリーでは一定の成果は上がっているので、本年度は県立博物館と共同で行いたいと考えている。

(事務局)

県立博物館には各館の資料が自由に置けるコーナーとともに、交流員の説明などにより、各館の場所や展示内容がディスプレイされるといった内容ではあるが、パンフレットなどが主であり、どこの館もPRが不足していると思う。来年度の特別展については関連事業とともに公共の電波を使って県民へ広く周知していく予定です。

(委員)

宣伝方法についてですが、春は桃の花がきれいなことから、観光客が沢山訪れる時期であり、風林火山関係で石和の温泉組合も力を入れている。また、学校も新緑や秋の紅葉の季節に合わせて計画している。あとは定年や地域を回りたいなどの個人的な事情が加わるものと思われることから、地域の方や高齢者の方々を誘いやすいような楽しい企画をして欲しい。ぜひ、目に見える宣伝や大きなポスターを。

(委員)

考古博物館にしかない自然を活かすことにより、職員や協力会、各種団体を取り込むことで、文化財セミナーのように時代を追った歴史が確認できるよう、わかりやすい手作り冊子の作成や、甲府城みたいに一緒に歩いてもらえるようなボランティアを育てることが大事。これとともに、銚子塚や丸山塚などの史跡を加えたプログラムを組むことで、これをうまく定番商品化していったらどうか。県立博物館は直面する問題が大きいので、他の館の事情まで察する余裕はないと思われるが、各館とともに情報発信機能を持ってもらうことは大切。また、わたしたちの研究室について、最優秀を今年も受賞した子は将来、歴史関係の大きな仕事に就くのではないかと思う。こういった勉強は、未来へ繋がっていくと思うので、地味だが長く続けていって欲しい。よその力を活用することも考え、いろいろなことに興味を持ってほしいと思う。

(委員)

館長があいさつでふれた「指定管理者」が気になるが、何か情報でもあるのか。

(事務局)

これまでに導入されている施設の良い点と反省点を踏まえながら、難しい面もあると思いますが、全国的な流れの中で検討していくこととしております。具体案といたしましては、導入するとした場合は平成20年度からで、19年度は検討段階というところです。